

ひろば大代

NO.227

大代公民館

小学校竣工を祝って

大江高山神楽社中 渡利昭蔵

大代小学校竣工おめでとうございませす。

大田市の西の端へ大交りっぱな校舎と広い運動場を建設していただき、小学校だけは残してもらって非常に喜ばしい事だと思えます。これからこれ以上子供が減らないようにしていきたいものです。

去る五月二十四日、竣工式のアトラクションに神楽も参加して下さいという事で「大蛇」と「恵比須」を舞うことになりました。そして今回の祝いに紅白の餅について、「恵比須」で撒いたり配ったりすることになりました。前日に一斗五升の米を朝七時過ぎから蒸し始め、約千個作り、五百組を包み終わったのが十二時頃でした。

そして本番はにぎやかに前から横からと来賓の方にも撒いてもらい、あつ

という間に終わりました。餅作りに協力して下さいだった団員諸君と奥様方、おばあちゃん本当にありがとうございました。

銭太鼓

下市 渡辺美里

六十の手習いではございませんけど今年の四月からふとした事から、銭太鼓を習い始めました。俵つみ唄と言うお祝いの唄でとつても明るく楽しい歌詩です。

五月二十四日に小学校の新築記念のお祝いの席で皆様と共に披露させていただきました。この平成十年五月二十四日は心に残るよき思い出を、この銭太鼓に依って得た事に感謝し、大満足いたしております。

ボケ防止になるのではと思ひ、始めた「銭太鼓」楽しんでなごやかに未永く教わりたいものと思っております。この郷土の一芸として子供達にも受け継いで貰えないものかとふつと青空を仰ぎながらのひとり言でした。

くにびき国体夏の開会式(現天皇)

皇太子同妃殿下ご臨席の折にも銭太鼓が披露されています。川柳に皇太子こりや面白い銭太鼓と詠まれています。

こんな面白い銭太鼓いったいどこから流行ってきたのでしょうか。

母の思い出

下市 森 守

「母の日」の思い出をと言われてとまどう私。母のいない母の日……何となしかり切れない。

母の健在の折りには母の日を祝う事もなく、ただ生きるために夢中で、母の日当日の夕食に知る年月でした。

そして百姓をする母の姿を一生懸命に見て、やつと真似る事が出来る様になつたら、母の姿はもうこの世から見えなくなっている。こんな年月を送りながら時代は廻っているのでしょうか。

腹を痛めて生んでくれた母にこれ一つとして感謝をする事もなく、初子を出産する時は苦労があったと思うけど私が生まれる頃は又出来たと言う感じ



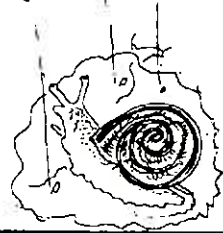
ではなかったかと思えます。でも母のお腹で育った事は間違いないと思います。小学校時代に父と母の肩たたきをした事がかすかに思い出される程です。私達の子供の頃には母の日は残念ですけれどありませんでした。

老後の世話をした事と毎日行く墓参りがせめてものお詫びの母の日でしょうか。

この出合いを大切にし、是非親孝行をして下さい。

体協会長に就任して

下市 佐藤哲朗



今度の度、体育協会のお世話をさせて頂いたことになりました。皆さんの意見を尊重し全町民の参加出来る体育行事を実施したいと思います。

第一回役員会において六月七日(日)に「弥山荘(川本町三谷)へ歩いて行く」を計画しました。

当日は福祉弁当・ゴルフ同好会コンペと行事が重なりましたが、老若男女

総勢四十三名、内六十五才以上十三名小学生以下九名の参加を得て、道中一時間下谷の道を自然を観察しながら楽しく歩きました。

到着後入湯し、持参した弁当を長光寺の境内で食べて帰路につきました。が往年の若者は全員歩いて、現在の若者は一部を除いて車に便乗して帰りました。

次回行事は八月一日(土)「色別対抗ナイター綱引き」を高山会館広場にて七時より計画しています。皆さん当日は競技・応援に参加をお願い致します。

また九月は最大のイベント町民運動会を、全町民の皆さんに喜んでいただける楽しい運動会になるよう工夫をこらして企画致します。競技希望等ありましたら各自治会体協役員迄お申し出下さい。

町民の皆さんのご協力を得て二年間一生懸命頑張る所存ですので宜しくお願い致します。

あき缶の投げ捨てはやめよう

「旬を求めて」
其の十三「どんぶりものがたり」

関西高山会会長 田辺正義
料理研究家

「天井」

天井は江戸っ子文化である。

てんぷらといえは名づけ親は江戸後期の戯作者山東京伝であるという話がある有名だ。

寛延元年(一七四八)に出版された「歌仙の粗糸」に「てんぷらは何魚にても、粉をまぶして油にて揚げる也」とあり、てんぷらの起源は百年ほどさかのぼることになる。

「江戸のてんぷらはあなご、芝えび、こはだ、貝の柱、するめなどを粉でゆるととき油揚げにしたる」と文献に述べられている。

昔のてんぷらの店はなぜかわざわざ自宅前に屋台店を置いて商売したのかおそらく当時は油の精製技術が未熟だったため、油臭くて屋台でやらざるを得なかったのではないだろうか。

さて天井のルーツは新橋の「橋善」という話がある。「橋善」は天保二年(一八三一)の創業という。そして

「橋善」の看板はかき揚げ井と昔から相場が決まっている。

揚げたてを濃いめのつけにくぐらせてアツアツの井飯にのせる。それをかき込む醍醐味、まさに井物の王様である。だから天井専門店が誕生し、現在に至っている。

「親子井」

親と子をひとつにしたのが親子井である。その生みの親は現在も日本橋人形町で、盛業中のしゃも鍋の「玉ひで」である。

玉ひではしゃも鍋ひとつとして嘉永五年（一八五二）の名物番付にも載った老舗である。親子井は三代目の未亡人のアイデアであるという。

当時はしゃも鍋を食べる時、客が必ずといていくらい最後にしゃも二つ三切れ残し、それを鍋の煮汁で煮て卵の残りでとじ、ご飯にかけおいしうに食べる。そこで思いついたのが名付けて「親子井」とのこと。

親子井はたちまち兜町や米屋町当時日本橋にあった旧魚河岸を中心に宣伝され、その名が全国に広まることとなる。

知恵と創意工夫について考える

関西高山会事務局長 中本 弘

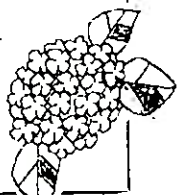
よく知恵を出せ、工夫せよと言われる。昨今の不況及び社会がきびしくなればなる程、知恵・工夫が生き残りのキーワードといわれる。

私は知識≠知恵ではないと考える。知識が知恵になるために私なりに次の三点が必要と思う。

第一点は知識が知恵に変わり結果を出すためには、本人の涙ぐましい努力がなければならぬ。知識は学ばば習得できる。しかし、知恵はその知識に裏付けされた創意工夫が、自分の血となり肉とならなければならぬ。

第二点は常に目的達成のための課題改善その他問題点を把握し、それをクリアーのため挑戦する。諺に「失敗は成功のもと」がある。達成のために目耳、手、足等人間の五感作用を駆使しなければならぬ。そのカギは現場にまた的確な情報収集等にある。

第三点は謙虚な姿勢である。他人か



ら聞いた話はすなおに聞く。複数以上の人の噂話は本当であると信じる。謙虚な気持ち・態度こそ知恵、工夫のバロメーターと考える。

知恵や判断は教わるものではなく自分でみかぐものである。

目的に向けて知恵を出そう、工夫しようと言われるが、案外身近なところにあると考える。

しかし、その前提は置かれた立場、責任に対する誇り、信頼がなくてはならないことは言うまでもない。

交通死亡事故多発警報！発令

大代交通安全協会会長 市原仁郎

県内の交通事故による死者は五月二十四日現在二十八人に達し、特に五月十五日～二十四日までの十日間に五件五名の死亡事故が連続して発生しました。

ドライバーの皆さんは常にゆとりある運転を心掛けて、

- 一、前方注視の励行
- 二、スピードダウンの励行
- 三、シートベルトの正しい着用

に務めていただくと共に交通ルールとマナーを守って下さい。

去る五月二十七日、市民会館に於て交安協の総会の席上、次の方々が優良運転者（十年以上）として表彰されました。（敬称略）

武田章（平） 葛清子（上市）

おめでとうございました。次の二十年表彰を目指し安全運転に努めましよう。

俳句 あすなる句会

大田市 原田萬里

花菖蒲目線の高さが佳境なり

五月晴古城の如き柵田かな

下谷 尾崎三枝子

忘れ物したかでで虫後戻り

夏木立機械の音に暮れ初めし

下市 渡 あやこ

葉の裏はでで虫の宿雨しとど

花菖蒲壺に競へる句座につく

柿田 横手いちえ

雨あらく取り込む鉢にかたつぶり

減反田甦らせて花菖蒲

八反田 森 信子
艶やかに十二單衣や花菖蒲
暗闇にはしゃぐ声あり初螢

椿 花田時子

我が畑に希望うまれし茄子の花

梅雨の夜公民館の英会話

下市 今田文字

新校舎竣工式や若葉雨

でで虫の舗装の道に迷ひ出で

上市 笹田サチエ

こと足りて今日の一日や花菖蒲

雨上り蝸牛カタツムリ這ひ筋曳いて

川上 岩田律枝

ゆっくりと静かに生きて蝸牛

清らかに水面に揺れる花菖蒲

椿 柿丸寿枝

梅雨寒や紅茶にたらすウイスキー

菖蒲園巡りて小さき旅終る

六月七月行事予定

六月末行事予定

23日（火）連合自治会

27日（土）子供の料理教室

28日（日）福祉弁当

◆30日（火）ふれあい教室

七月行事予定

◆5日（日）大田市消防ポンプ

操法大会

◆6日（月）和牛改良組合共進会

◆10日（金）あすなる句会

◆12日（日）参議院選挙日

◆15日（水）高山会代議員会

◆17日（金）十七夜祭

◆23日（木）連合自治会

★——★おしらせ★——★

◎大代公民館より

先日寿会の方々に、公民館周辺の草刈り奉仕をして頂きました。大変きれいになりました。厚くお礼申し上げます。

◎社協大代支部より

下市 立野 稔様から

川上 渡井ヨシ子様から

香典返しにかえ金一封の御厚志を頂きました。厚くお礼申し上げます。

